

第44回 教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2013年7月20日(土) 14:00-18:10 都立両国高校

2 参加者

河潟、渡邊、根本、畠山、宮嶋、笠間(代理・萬年)、南島、能見、川村、矢島竜、飯田、小尾、(オブザーバー)今吉、阿部、

3 新委員の承認

下記の方々の委員委嘱を承認した。

上村剛史氏(海城中学高校・地学教育学会)、小尾靖氏(相模原青陵高校・地学教育学会)

飯田和明氏(浦和東高校・地質学会)、矢島竜太郎氏(川崎市立小倉小学校)

4 前回議事録の確認

議事録案の通りに承認された。

5 中教審・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

○中教審

・教育再生実行会議で議論されている到達度テストについて情報交換を行った。

・文科省に「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」が設置され、議論が進んでいることが報告された。

○理数系学会・他研究団体等

・最近の理数系学会連絡協議会の協議内容について、特に教員養成が今後の重要課題であることが報告された。

・京大防災研地学教育研究集会(8/21, 22)に数人の委員が参加し、情報収集の予定であることが報告された。

・天文教育研究会(8/19・山口)にて、地学基礎の教科書執筆者をパネラーに「地学基礎で何を学ばせるか、『地学基礎』執筆者が徹底討論」というシンポジウムが行われるとの報告があった。

○教育問題検討委員会関連の報告事項

・JpGU地学教育シンポジウム(5/18)について、HP掲載資料を基に概要報告が行われた。

・地球惑星科学分野についての大学教育に関する参照基準シンポジウムが6/16に行われた。その提案内容は、JpGUがかつて提案した「地球惑星科学教育の目的」と整合性が良いと思われることが報告された。

○その他

・国際地学オリンピック2016年三重大会の組織委員会が発足したことが報告された。

6 協議

(1) 今後の全体的な日程(予想)の確認について

次期学習指導要領について、最も早い場合、小学校では平成25年度中に改訂諮問、平成28年告示、平成31年度実施となる可能性があることが確認された。なおこの場合、今までの例に倣うと、中学校は平成32年度実施、高校は平成33年度実施になると考えられる。

(2) 今後の検討体制について

次期指導要領改訂において、高校の科目設置について一つの案に絞って提言を出すのではなく、複数案を提示するべきであることを確認した。これに対応するべく、考えられる科目設置案をいくつか挙げ、それに接続する小中学校の教育内容をセットにして検討するWGを立ち上げることを決定した。

なお、各委員がどこのWGに属するかは、次回以降検討する。

(3) 検討すべき内容・時期について

地学におけるscience for all、或いは地学に対する社会からの要請の観点から、地学基礎の内容を検討することを確認した。検討方法等は、次回以降に具体的に検討する。

(4) 各種働きかけについて

・文科省幹部については、以下の意見書、提言を持参して意見交換を行うことを確認した。なお、意見書、提言の文案草案を作成する担当者を決定した。

①地学教育の現状(特に地学基礎の履修率に関して)と今後の課題について(草案担当:宮嶋委員)

②校種・教科を越えて整合性のある学習内容の要望(草案担当:根本委員)

・連合幹部については、高校地学教育の現状及び次期指導要領改訂日程の報告、文科省との意見交換の同席依頼について、畠山委員から理事会にて説明を行うことを確認した。

・政治家への働きかけについては、具体的方策等、継続して研究することを確認した。

- ・各都道府県の教育委員会に対し、生徒の学習権の保証の観点から、必ず地学教員を配置する要望書の提出を実行することを確認した。(草案担当：川村委員)

7 次回小委員会について

8月下旬から9月下旬を目途に、メールにて日程調整を行うことを確認した。なお、協議事項で示された各草案担当者は、次回小委員会に草案を提案することを確認した。また、各委員に、新規委員の推薦を要請した。